

埼玉の高校図書館と 学校司書制度のあゆみと現状・課題

県立本庄高校
高橋 尚子

はじめに

現在、埼玉県の公立高校には、すべての全日制高校と昼夜開講定時制高校（パレトスクール）と盲学校に常勤の司書が配置されています。全定併置の定時制高校と盲学校以外の特別支援学校には未配置です。司書は行政職で、人事委員会による免許資格職試験により採用されています。

2024年度当初の臨時的任用者数は13名（代替職員は除く）で、他は正規雇用の司書です（臨任率11・5％）。埼玉県高等学校教職員組合（埼高教）司書部では、長年臨任者の正規雇用化を要求してきました。2021年からは「就職氷河期世代を対象とした埼玉県職員採用選考」に司書枠が設けられ、不十分な内容ではありますが臨任者の受験できる機会となりました。

このように「専任・専門・正規」の学校司書の高い配置率や採用試験が継続して行

われている状況は、全国でも高いレベルといえます。

本稿では、全国の学校司書の配置状況、埼玉の高校司書配置のあゆみと高校図書館の現状と課題について考えてみたいと思います。

全国の学校司書の配置状況

2023年度に文科省が行った「令和5年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」の結果が、2024年6月に公表されました。それによると、公立学校での学校司書の配置は、小・中・高等学校とともに前回の2020（令和2）年度「学校図書館の現状に関する調査」に比べて増加しています。しかし常勤の割合は、小・中学校ともに前回調査より下回っています。高等学校では、常勤の割合は前回調査より増加しています（55・5％↓65・8％）。ただし、常勤の正規・非正規については調

査していないので、その割合はわかりません。全日本教職員組合（全教）学校司書部が、47都道府県と政令指定都市の教育委員会に学校司書の配置について行った調査によると、常勤であっても非正規のみとの回答や、臨時的任用の場合フルタイムであっても司書資格が問われないとの回答が複数ありました（2024年度全教学校司書部学習交流集会配布資料より）。

埼玉県の高校司書配置のあゆみ

埼玉の公立高校で、初めて学校司書の配置数が記録されたのは1958年です。その頃、様々な形（雇用形態、勤務条件）で採用・配置されてきた職員の公費化と学校司書職への移行の運動が全国で盛り上がりました。埼玉県では、埼高教の運動や埼玉県高等学校図書館研究会（高図研）の活動により、学校司書の配置につながっていき、1968年には有資格者が図書館

専任で勤務するようになり、1975年に司書採用試験が始まりました。1979年には全校配置（全日制）を実現しましたが、定時制、養護学校には配置されませんでした。

埼玉の高校図書館の現在

埼玉の高校図書館研究会（高図研）について

埼玉の高校図書館は、高図研（1957年設立）での研究活動を中心に発展してきました。高図研規約には、会員について「学校図書館担当の教員と司書をもって組織する。特別支援学校もこれに準ずる」とあります。しかし現在は、教員が多忙で参加が難しいため、司書が活動の中心になっています。2024年度の特別支援学校の参加は9校です。

全会員が集まる機会は年3回（総会、夏季研、秋季研）です。その他に研究専門委員会（11委員会）と理事会（5部会）がそれぞれ学期に1回開催されます。地区別の活動としては、地区別研究集会（4月）、図書委員研修交流会が年1回開催されます。

また、会員限定ログインサイト「高図研 net」（通称 net = どことねっと）には、

会員校の蔵書横断検索や一斉メール送信の機能の他、各校の実践や作成した資料のデータベース、困りごとの相談や、耳寄りな情報を提供する掲示板等があり、サイト内での交流も日常的に活発に行われています。

このように高図研の運営体制は整備され、研究活動が行われています。司書同士は、年間を通して顔を合わせることが多くあり、地区や年代を超えて交流しています。

地区ネットワーク活動について

現在、県内を17地区に分けて近隣の学校同士が協力し合うネットワーク活動を行っています。活動内容は地区によりそれぞれですが、主な活動は、司書研修、資料の相互貸借、情報交換などです。

ネットワーク活動のなかでも、直接自校の図書館サービスに生かせるのが、資料の

司書の配置と、待遇・制度の歴史

1953 (昭和 28) 年	学校図書館法公布
1958 (昭和 33) 年	県立高校 (全日制) 54校配置 学校図書館担当職員 公費採用 27名 (事務主事補) 私費採用 28名
1962 (昭和 37) 年	学校司書補職 設置 (行政職 6級)
1968 (昭和 43) 年	学校司書職 設置 *有資格者が図書館専任として勤務
1975 (昭和 50) 年	「司書採用試験」による (県立図書館と共に) 独自採用開始 *現職有資格者の学校司書への「任用替え」実現
1979 (昭和 54) 年	学校司書の「全校配置」実現 *18学級以下の小規模校にも学校司書配置
1986 (昭和 61) 年	職名、学校司書から「司書」に変更
1991 (平成 3) 年	「免許資格職職員採用試験」の導入
1992 (平成 4) 年	大宮中央高校 (単位・定時・通信制) への司書配置
1993 (平成 5) 年	主任司書 (主査級) 昇任へ「選考」導入 羽生高校 (定時制) への司書配置実現
1996 (平成 8) 年	特別支援学校 (県立盲学校・埼玉一学園) への司書配置実現
1998 (平成 10) 年	伊奈学園総合高校に3人目 (臨任司書) 配置実現
2000 (平成 12) 年	司書採用試験中断
2004 (平成 16) 年	統廃合校に最終年度まで正規職員配置
2011 (平成 23) 年	「担当部長兼主任司書」制度導入
2012 (平成 24) 年	「司書採用試験」再開
2014 (平成 26) 年	学校図書館法の一部改正
2015 (平成 27) 年	「主任専門員」配置
2021 (令和 3) 年	「就職氷河期世代を対象とした職員採用選考」に司書枠追加 (2023年度継続実施)
2023 (令和 5) 年	臨任者の同一校継続勤務が2年まで可能に
2024 (令和 6) 年	臨任者の同一校継続勤務が3年まで可能に

相互貸借です。特に定期的に独自の運搬手段を確保して相互貸借を行っているネットワーク (現在8地区) では、授業支援のための資料提供能力が質量ともに高まり、図書館資料を利用した調べ学習が数多く行われています。

西部地区の2つのネットワークでは、相互貸借を主とした協力体制を作り、参加15校合わせた蔵書約57万冊を活用していま

す。この地区の2023年度の相互貸借冊数は3897冊で、他地区と比べて段違いに多くなっています。1回の授業に対して5百冊集めることもあるそうです（県立・市立図書館からの借受含む）。このような豊富な資料提供による授業支援が、教員や生徒からの信頼を得て、更なる利用へとつながっています。

学校司書の授業支援

学校図書館法（学図法）には、学校図書館の目的は「学校の教育課程の展開に寄与すること」と規定されています。授業支援は、学校図書館の根幹とも言える役割です。司書は教員からの要望に応じて、調べ学習への資料提供や、図書館の利用の仕方や資料の調べ方の案内、読書のきっかけとなるような楽しい取り組みも工夫して行っています。最近の実践から、生徒の一人一台端末を活かした探究学習への支援を紹介しましょう。

探究学習で修学旅行先（海外）を調べる課題が生徒に出されました。しかし、調べ方の指導の時間が十分取れなかったので、司書がパスファインダー（テーマに関する文献・情報のリストや、調べ方の案内）になるサイトを、グーグルサイトを使って構

築しました。ページ上部には生徒の関心を高めるため、信頼性の高いYouTubeの動画や関係サイトへのリンクを掲載してあります。また、下部には、調べるためのキーワードのリストや、国立国会図書館のリサーチナビなど詳しく調べるためのリンクを用意し、調べ方を明記しているところに特徴があります。また、今まで図書館で作成してきた資料の調査法に関する資料も掲載し、本を使って調べるために自校の図書館だけでなく、公共図書館の使い方や利用できる図書館の調べ方までサイト上で把握できるように構築したそうです。生徒、教員から好評を得たとのことでした。

特別支援学校への司書配置と 埴保己一学園の図書館

埴保己一学園（盲学校）は県内の特別支援学校で唯一、専任の司書が配置されています。幼稚園から高等部専攻科まで百名近い幼児・児童・生徒が在籍しており、児童書・絵本・紙芝居から一般向け図書、東洋医学関係専門資料まで、幅広い分野の資料を蔵書として揃えています。それだけでなく、個々の視覚障害の程度に合わせた資料が提供できるよう、墨字・点字・拡大図書・デジジー（音声図書）といった様々な形態の資料を取



子どもたちが自分で絵本を探しやすいように整理された読書室

集・所蔵しています（2023年度蔵書冊数：16916冊）。2023年度の貸出冊数は、生徒1133冊、教員819冊で、生徒一人当たりの貸出冊数は11・8冊でした。単純に比較はできませんが、高校図書館の平均が4・3冊であることからすると、とても多いことがわかります。

このように利用が多い理由は、専任の司書がいて、利用者に合わせたきめ細やかな図書館サービスや読書推進活動をしているからです。図書委員会も生徒が主体となっ

て楽しくできるように工夫して活動をしています。さらに、外部機関や県内の図書館ネットワークも活用し、十分な資料を収集、提供し、学校教育を支える活動をしています。

現在特別支援学校では教室不足により図書室が教室などに転用され、本が廊下に並べられているところが増えています。また、担当教諭は多忙で図書の仕事まで手が回らない状況だと聞いています。どの特別支援学校でも、埼保己一学園のように司書がいて図書館をいつでも利用できる環境があたり前のことになるように、埼高教司書部では学校司書の配置を要求しています。

学校司書制度の課題

埼玉の公立高校では、採用試験が継続され、安定した司書制度があり、活動も充実しています。しかし、全教学校司書部の集会等で他県からの報告を聞くと、非正規化が進むなど、とても厳しい状況がうかがえます。

このように、学校司書の配置に自治体によって格差がある根本的な原因は、学図法に「学校司書」の配置が義務化されていないこと、資格要件も問われていないことによるものです。

すべての学校に専任・専門・正規の学校

司書を配置するには、学図法に学校司書を「置かなければならない職」「学校図書館の専門的職務を掌る職」として位置づけることと、学校司書を学校教育法、標準法など関係法規に位置付けることが必要です。その実現に向けて、全教学校司書部の学校司書制度確立の運動に参加していくとともに、学校図書館や学校司書を、生徒や教員から必要としてもらえるように、日々の活動を充実させていく努力が現場でも欠かせません。

おわりに

最後に、なぜ埼玉の公立高校の学校司書制度がこのように発展してきたのか、感じたことを書きます。

一つには、高図研の存在が大きいのだと思います。教員と司書が対等の立場で活動する研究団体は、他県にはないと聞いています。戦後民主主義教育の高まりの中で、教育には学校図書館が「欠くことのできない基礎的な設備（学図法第1条）」であると定められました。その動きの中で、埼玉に高図研を立ち上げた先生方が、専門職員である学校司書を必要とし、ともにあゆむ仲間として身分確立の運動にも尽力してくれたからです（ほとんどの方は埼高教の組合員で、

現在まで引き継いでくださっています）。

それから、埼高教司書部の先輩方が、身も労働条件も何も整っていない状態から、一つ一つ要求して、今の制度を作ってくれました。たとえ自分たちはその恩恵にあずかれなくても、惜しまず努力し残してくれました。学校司書は一人職ですが、互いに助け合い、高め合い、協力して仕事をしています。これは、先輩方から引き継いできた埼玉の学校司書の財産です。

今後、さらに発展していくためには、多くの先生方とつながり、協同して、埼玉の学校教育をより良くしていく中で、学校図書館活動を進めていくことが大切だと思います。

○参考文献

- ・「全教学校司書部第36回定期総会議案書」（全教学校司書部）
- ・「埼玉高図研年報第61号2023」（埼玉県高等学校図書館研究会）
- ・「埼玉高図研年報第60号2022」（埼玉県高等学校図書館研究会）
- ・「ぶつくふれんどNo.10」（埼玉県高等学校図書館研究会司書部会）
- ・「第40回埼高教司書部定期総会2024」（埼高教司書部）
- ・『ある戦中派教師の証言』栗原克丸著（高文研1985・4）

小学校での図書館教育の実践

さいたま市立尾間木中学校

田中 敦子

はじめに

私は、さいたま市の5校の小学校で17年余り勤務した。その後、都内の公共図書館の勤務を経て、現在はさいたま市の中学校の学校図書館司書として勤務している。小学校の図書館では、非常勤職員としての立場で大変な事も多かったが、児童のためには力が湧いてきて努力したことが形になって達成感を味わえた事などが多かった。本稿では、それら各学校での主な実践について記してみる。その中で、少しでも今後のさいたま市の図書館教育の発展に役立つことができたら嬉しく思う。

学校図書館司書の仕事

学校図書館では、通常の図書館司書の業務に加えて、利用方法を説明するオリエンテーション、利用案内の作成、図書委員会の運営、授業での読み聞かせ・ブックトー

ク、授業で使う本の選定、調べ学習のIT、団体貸出し、学校間物流での本の貸借、図書館だよりの発行、読書関連の学校行事の準備・実施、児童・生徒の個人々への対応、運営報告の提出、ボランティアさん対応といった広範囲の業務が加わる。

先生と生徒の「本の架け橋となること」が最大の役割であるが、そのためには、上記のように、目には見えない多岐・広範囲の業務があつてはじめてできる仕事である。

図書館をつくる

常盤小学校に赴任した時には、図書館と言うより、教室の中に本が置いてあるという状態であった。しかし、校長先生から「学校図書館をつくる」との宣言があり、開館までのスケジュールと出勤日を明確に決めてくださった。そして図書主任の先生と試行錯誤のうえレイアウトを考え、書架

の選定などを行なった。また、今まで置いてあった本の扱い、配架方法を司書が計画した。職員会議において先生方へも細かくレクチャーし、学校挙げての図書館設立へ共通理解が深まっていた。

2教室分が図書館になることが決まり、夏休みに工事が入った。教室各々のスペースが「読書の部屋」、「調べ学習の部屋」となり、書架の導入後、先生方に本の移動を協力いただき、配架が進んだ。そして、いよいよ開館を迎える時、お昼休みにオープンングセレモニーを開催してくださった。金管バンドの児童のファンファーレとともに、テープカットを行ない、学校図書館が開館した。ちょうどその頃、図書館へのPCの導入が始まり、先生、児童への利用案内、カード作成、図書館利用のオリエンテーションを行なった。さらに図書館の名前を児童から募集し、「ときわつ子本の国」と名付けた。



学校間物流の本

無事に閉館した学校図書館だが、週1日閉館になるのが子どもたちは不思議のようであった。これは司書が週4日勤務なので仕方なかった。また1日6時間勤務では、図書館立ち上げ業務など、毎日、勤務時間内終了は無理であった。ただ、非常勤職員司書への管理職の細かい配慮があり、何とか乗り切ることができた。

学校間物流と団体貸出

子育てして3年後、向小学校で司書の職を得た。ここでの読み聞かせの実践を紹介したい。読み聞かせの絵本の中に、司書教諭の先生が入ってくれた本があり、も

う一度読んでほしいとリクエストがあった。「おじいさんの小さな庭」(シャイルド／文、バーナテッド／絵)で、表紙も綺麗な色使いの絵本である。その本は他の学校でもよく読む絵本となっていた。

また、向小学校は文部科学省学校図書館資源共有モデル地域事業実践協力研究校に指定されており、団体貸出、学校間物流の本の活用が活発であった。自分の学校にない本も使用し、先生方の授業の内容を深め、授業の準備もやりやすくなるため大変重要なシステムである。

先生方の「子どもたちがたいへん活用し、ありがたいございました」の言葉に支えられて取り組むことができた。しかし、他校や学校支援センターとの連絡、事務処理、貸出・返却後の確認、返却期限の管理等があるため、やむなく残業することも多く、我が子の幼稚園の園バスのお迎え時間に間に合わないことが頻繁にあり、苦労した。

司書教諭の先生との連携

原山小学校は歴史のある学校のため、図書館も古く暗かった。赴任2年目に校長先生から、司書教諭と話をして図書館をどう活用したいかの案を出すように指示があった。元々あまり広くない閲覧室で司書室

との区切りの小さな窓口で貸出・返却を行なっていた。そこでその区切りをなくし、新たに木製のカウンターを設置して司書コーナーとし、閲覧室とつながる形のワンプフロアの学校図書館となるよう図面を書き、壁際の整理棚も書架として使えるように提案した。最初、予算が通らず二案、三案と図面提出に苦慮したが、ようやく図面が通り、夏休みに工事が入り、カウンターが完成した。図書館入口から入ってすぐカウンターとなり、閲覧室のスペースも広くなり、児童と先生とも距離が近くなり貸出もしやすく、児童も喜んでいった。

その後、図書委員会で名前の募集を行い「ビッグ原山ゴーゴーブックタウン」という、活動的な名前に決まった。「トシヨリン」というキャラクターも児童の案で登場した。司書教諭の先生が大きな看板を作成してくださった。校長先生からは「好きな事だけやればいいから」と言われ、学校全体でも図書館の活用に理解があった。

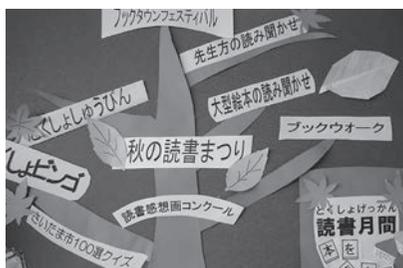
「図書館だより」の毎月の発行は大変だった。家に持ち帰って午前3時頃まで掛かって作成したこともあった。授業に関しては司書教諭の先生が年間指導計画を作成し、授業で図書館を使う日程や司書が授業に入る場面を決め、具体的に内容を示してくれ



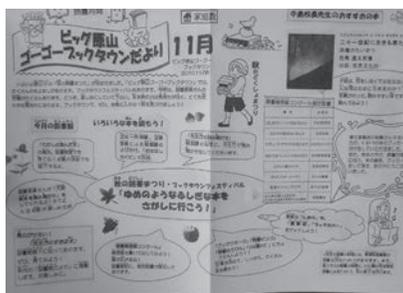
原山小での読み聞かせ



原山小・リニューアル後のカウンター



- (上) 原山読書月間催し掲示
- (中) 原山小図書館だより
- (下) ビッグ原山ゴーゴーブックタウンだより



調べ学習の様子

た。
総合的な学習の時間「お年寄りと共に生きる」の調べ学習では、百科事典・辞典の活用方法と留意した本の内容を説明し、どのように活用して、そのテーマを調べていくかを司書が解説した。調べ学習オリエンテーションと名付け、司書教諭がプリントを作成してくれた。児童は用意した本の中から自分で選び、一生懸命調べていた。戸惑っている児童には司書がその場で調べ方をアドバイスし、目標に沿った調べ学習ができたと思う。ここでは、先生が児童に「司書の先生は、図書館を使っていない時にみんなの本の準備をしたり、授業の準備や見えないところでたくさんのお仕事をしているんだよ」と言ってくれ、とても感動し

たのを覚えている。

調べ学習の方法を説明

与野南小学校は、1学年2クラスという小規模校である。人数が少ない分、子どもたちとの接触する機会が多く、きめ細かく児童と会話ができた。3年生の「本で調べて報告しよう」では、百科事典の使い方・目次と索引の使い方などを行なった。5年生の「グラフや表を引用して書こう」では、先生の研究授業の事前授業で図鑑や年鑑の読み取り方を図書館での授業で司書が説明した。この学習により、「統計資料から分



先生おすすめの本



かるた大会の様子



ブックロー

「かるたを細かく読み取ることができた」と先生からのコメントをいただいた。これには、本の選定と説明のための資料の作成が必要で、家に持ち帰って仕事をしていた。

ビブリオバトルを実施

城南小学校の4年生で、国語の時間、ビブリオバトルをやってみたところ、児童がとても気に入って、図書時間は毎時間行うようになった。好きな本を人の前に立つて紹介するというので、普段おとなしい子どもや、発言が苦手な児童でも発表を行うことにより、自信がつく。司書が選書をアドバイスすることもある。チャンプ本を決める時は、聴く児童は集中力が養え、また、自分が知らない本を知る、読みたくなる本

と出会えるとても良い企画である。また、図書ボランティアさんが、可愛いぬいぐるみを作ってくれた。図書委員会の活動では、毎年、年始のかるた大会を行なった。

おわりに

児童と親密にかかわる学校司書の仕事は奥深い。ただカウンターでピピッとやって座っているだけというイメージがまだにあるようだが、一緒に活動を行なう図書委員は何より図書館業務の大変さを知っている。「先生、どうしてこんな大変な仕事、ひとりでやっているのですか?」「どうして先生は毎日いいのですか?」という問い掛けに何と応えてよいかと戸惑いつている。私自身もいろいろな疑問を感じ、都内

の公共図書館に移り7年間勤務した。週4日、7時間15分の勤務であり、当然、司書は専門職なので、研修、出張、社会保険加入、有給等が整っていた。また、学校司書は週5日、1日6時間であるが時給は公共図書館よりも高く、社会保険等の制度も整っていた。

今回、縁あってさいたま市の中学校に勤務しているが、会計年度任用職員になってからは、なぜか社会保険もない。生徒、児童に直接かわり影響力が大きい司書の処遇を、予算が足りないから、その時間の処だけで納めようとするのではなく、業務の実態に沿って待遇を改善していく、司書の資質向上、先生方の研修も含め、教育目標達成、授業改善のための計画をたてること、学校図書館を活用した年間指導計画をたて学校図書館の推進を図ることが必要なのではないかと思う。学校司書の業務はやればやるほど、教育職であることを実感している。国家資格である司書が毎月時間を費やしての運営報告は提出する必要があるのか疑問に思う。かなりの仕事量をこなしている、さいたま市の小中学校司書が誇りをもって仕事ができるよう、埼玉県の高校のように、学校の定数の一員として正規で採用になることを切に願う。

生徒に推される図書館をめざして

入間向陽高校での実践

県立入間向陽高校

長部 育子

図書館のイメージ作りとPRの必要性

どうすれば生徒にもっと図書館を利用してもらえるか。司書は日々頭を悩ませている。残念ながら本好きの一部の生徒を除き、大半の生徒にとって「図書館＝自分には関係のない場所」だと思われるがちなのである。ともすればこのような状況に陥ってしまう学校図書館において、より多くの生徒に「図書館＝自分に必要な場所」と感じてもらうためには何が必要だろうか。

2022年度本校に着任してから試行錯誤した結果、その学校の特徴に合わせた「図書館イメージ」目標の設定とそれらを実現するためのPR戦略が必要であると考ええるようになった。本稿では、入間向陽高校での「図書館イメージ」目標と実践を紹介していく。

入間向陽高校図書館の目指す「図書館イメージ」目標

本校は、創立42年目を迎える全日制普通科高校で、女子が全体の7割を占める。部活動は非常に盛んである。昨年度の卒業生のうち9割弱が上級学校へ進学している。また、特筆すべきは、学校行事への情熱で、毎年6月に実施される「生徒要望アンケート」の「入間向陽高校の一番の魅力は何ですか?」という質問に対し、毎年圧倒的な1位を獲得しているのは、「行事が盛り上がる」である。

このような校風に基づき、図書館では以下の3つの「図書館イメージ」目標を立てることとした。

「本のひろば」

本や各種メディアを媒介として、生徒や

教員がフラットな関係で情報を交換できる場であってほしいと考えた。

「高校生活応援団」

授業・学校行事・進路活動等を強力にサポートすることをPR。学校図書館の目的の1つである「学校の教育課程の展開に寄与する」(「学校図書館法」第2条)を念頭に置いている。

「エデュテイメント図書館」

学びながら楽しめる&楽しみながら学べる図書館。学校行事への姿勢からもうかがある、「楽しいことが大好き!」な向陽生氣質を最大限に発揮してもらうために設定。

目指す「図書館イメージ」を実現するための方策

これら3つの「図書館イメージ」目標を

実現するため、それぞれ対応する3つのPRの方策を実施している。

(1) 館内の整備・充実⇩「本のひろば」

本校に着任し、最初に始めたのがこの部分であった。まずは選書。選書は目指す「図書館イメージ」の実現のための土台といふべきものである。魅力的な蔵書がなければ、生徒は図書館に足を運んでくれないし、他の方策も効果を発揮しない。

学校によって生徒の需要は異なるため、最初は手探りで本を選び、生徒の反応を見て方向性を決めていくことになる。

また、魅力的な蔵書があったとしても、「魅せ方」を工夫しなければ生徒には伝わらない。そのため、選書と同時並行で進めたのが、次の①から③である。

①生徒に人気があるテーマによる常設コーナーの設置

面白い本が多いという印象を生徒に与えることができる。「動く本をより動かす」イメージである。コーナーの多用は日本十進分類法(NDC)による配架を崩すため、賛否両論ある手法ではあるが、これまで本校含め3校で実施したところ、確実に生徒の利用を増やすことができた。

②毎月複数のテーマで行う展示

定期的な展示の更新により、常に新鮮な図書館を演出する効果がある。こちらは逆に「ふだんあまり動かない本を動かす」イメージ。季節・ニュース・話題等に合わせテーマを設定し、普段手に取られない資料にも光を当てるようにしている。

③館内レイアウトの変更

生徒の動線を考え、コーナーや展示が館内の各所に配置されるよう2022年度から23年度にかけてレイアウトの変更を行った。

①②③のポイントは、できる限り「面出し」(本の表紙が見えるように置くこと)の資料が生徒の視界に入るようにすることである。生徒にとって魅力的な本が面出しされていれば、彼らは自然にその場所に集まり、本を手取るのだ。常設コーナーや展示への反応がよいと、テーマ設定が確であったと心の中でガッツポーズし、反応が薄いとがっくりと肩を落とす。トライアンドエラーの毎日である。

(2) 授業・学校行事・進路活動支援⇩「高校生活応援団」

とりたてて本好きではない(あるいは本が苦手な)生徒に対しては、「役に立つ(使える)図書館」をPRすることが重要であ

る。

本校の属する高校図書館ネットワークでは、学校間の相互貸借が非常に活発で、業務委託による連絡車が月1回運行している。同一テーマの資料を大量に集められることを職員会議等でPRし、図書館資料を使った授業・課題を呼びかけている。実施された際には、授業・課題に向けたコーナーを作るほか、情報の探し方・使い方を説明し、司書が情報リテラシーの専門家であり、調査・研究のサポートができることを強調している。

また、国語の授業で制作された本のPOPやビブリオバトルのチャンプ本を館内にコラボ展示し、多数の本が貸出されている。学校行事支援としては、前任者が始めた体育祭団旗とクラスTシャツの展示を引き続き実施している。図書館も「チーム向陽」の一員であるとPRする効果があり、1年生を中心にデザインの参考のため見に来る生徒が多い。その他の学校行事(遠足・修学旅行・文化祭)や部活動関連の特集展示も例年行っている。

生徒の最大の関心事である進路活動支援にも力を入れている。総合型選抜や推薦入試を受験する生徒が多いため、志望理由書・小論文・面接などの対策書を充実させ、7



3年選択科目「国語表現」で生徒が制作したPOPと本を展示

11月にかけて特集展示を行っている。展示を見ている生徒には積極的に声をかけし、それぞれの入試形態に合わせて資料を紹介するなどした結果、入試対策資料の利用は年々増えている。

③ 図書委員会活動⇄「エデュテイメント図書館」

(1) (2) の取組みを通し、生徒の利用は徐々に増えてくるが、それだけでは足り

ない。図書館の活性化に必要不可欠であり、図書委員としての意識付けに最も効果的なのは、委員会の広報・イベント活動である。そのため着任2年目の2023年度に係を改組して「広報・イベント係」を作り、以下のような活動を新しく始めた。

① POP制作&展示班

「推し本紹介部」2023年度

専用の展示場所（「POP Palette」と命名）を設置し、メンバーの制作したPOPと本を定期的に入れ替えて展示している。

② 文化祭参加

「本探しゲーム」2023年度

草加高校図書館での実践を参考にした企画。クイズを元に本のタイトルを予想し、図書館の中からその本を探し出すゲームを実施した。小学生から大人まで楽しめるように、問題のレベルも初級・中級・上級（超難問！）を用意した。景品の決定にカプセルトイマシーンを使用したところ、毎年2日間でのべ200問以上のクイズを出題する大盛況となった。

③ 秋の読書キャンペーン

「図書PON☆フェス」2023年度

前任校の所沢西高校で毎年好評だった読書キャンペーンを本校でも実施することに

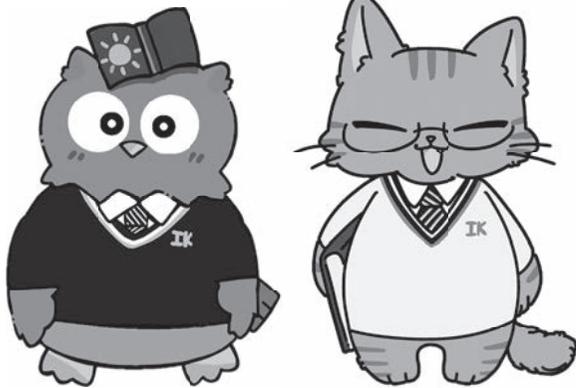


「図書PON☆フェス」でカプセルトイマシーンを楽しむ生徒たち

した。所沢西では借りた本の冊数に応じて景品をプレゼントする企画だったが、楽しいことが好きな向陽生の特性を考え、文化祭で人気のカプセルトイマシーンを再び使用することに。こちらも草加高校の企画を参考にさせていただいた。

④ 「読みツキ！KL (Koyo Libraryの略) おみくじ」2024年度

期間限定の③とは別に、年間通して実施



入間向陽高校図書館 生徒証

下記の者は本館の生徒であることを証明する
 学籍番号 11161116
 所 属 図書館学科
 名 前 鳥本 ほーほん
 生年月日 20XX年8月4日
 入間向陽高等学校図書館
 〒358-0001 埼玉県入間市向陽台1-1-1

図書館マスコットキャラクター「ほーほんくん」(上左)と「ちやちゃ」(上右)生徒証型のしおり(左)はイベントで一番人気!

入間向陽高校図書館 生徒証

下記の者は本館の生徒であることを証明する
 学籍番号 11251125
 所 属 図書館学科
 名 前 猫本 ちやちゃ
 生年月日 20XX年2月22日
 入間向陽高等学校図書館
 〒358-0001 埼玉県入間市向陽台1-1-1

⑤「図書館ゆるキャラ選手権」
 2024年度
 図書館・図書委員会の活動をPRし、生徒・教職員から愛される図書館作りのため、マスコットキャラクターを選定した。7人の生徒からデザインの応募があり、全校生

徒の投票でキャラクターを決定。当選した2つのキャラクターは、図書館通信やイベントのポスター、オリジナルグッズ等での活用をスタートしている。

おわりに

2学期終業式の放課後。「図書PON☆フェス」最終日とあって、1時間半以上も貸出や景品引き換えの行列が続き、3つのPR方策の効果が表れてきたことを改めて実感した。生徒1人当たりの貸出冊数は年々上昇しており、今年度も12月24日現在で11・7冊に達している。これはすでに昨年度の年間の県平均(4・1冊)の3倍近くに当たる。また、各学年で図書館を利用した授業や課題が実施されているため、貸出利用率(1年間に貸出をした生徒の割合)は、2学期末時点で93・4%(年間での県平均35・9%)になった。

毎年入れ替わる生徒たちから支持を集め続けるのはたやすいことではない。今後の図書館活動も浮き沈みがあることが予想される。しかし、座右の銘「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン「図書館学の五法則」より)を胸に刻み、一人一人の生徒を大切に活動の続けていきたいと考えている。